

11/4(日) 13:30~16:30 参加費1500円 リバティおおさか研修室 2

「ベトナムへの原発輸出」上映+講演+対談

加堂妙子さん × 中井信介さん × 伊藤正子さん(京都大学教員)

加堂妙子さんと中井信介さんをお招きして現地取材についてお話を聞くとともに、ベトナム現代史研究者の伊藤正子さん(京都大学教員)にも詳しい解説をしていただきます。ベトナム原発輸出問題について私たちが知るべきこと/するべきこととは何か、ともに学びましょう。

中井信介さんからのメッセージ

日本政府は、福島原発事故がいまだ収束していないにも関わらず、ベトナムに原発を輸出することを決めました。それは道義的に許されることではありません。また、原発建設予定地周辺は、風光明媚で農業や漁業が盛んな豊かな土地で、予定地に暮らす住民の多くは「住み慣れた土地を離れたくない」と訴えています。

しかし、原発の危険性が正しく伝わっていないために住民たちは予定地から僅か1kmしか離れていない土地への移転を自ら選びました。もしも将来、ベトナムに建設される原発で事故が起ってしまったら、彼らはどうなってしまうのでしょうか？それを考えると恐ろしくなりません。ベトナムへの原発輸出には、税金から巨額が融資され、私たち日本国民もベトナムの原発に対して責任を負わなければなりません。

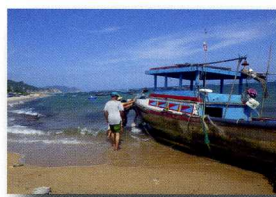
上映作品

『ベトナム「原発予定地を訪ねて」』

(撮影・編集：加堂妙子)

『忍び寄る原発～福島～の苦悩を輸出するのか～』

(制作：FoE Japan／撮影・編集：中井信介／26分)



その他のリバティ応援イベント

10/21(日) 14:00~16:30

「ひとりの人間として生きてきたこと

～アルビノ活動や私の実体験を通じて～」講演と対談

石井更幸さん(アルビノ) × 松永真純さん(学芸員)

参加費1500円 リバティおおさか研修室 2

10/28(日) 13:30~16:00

ドキュメンタリー上映会+パクサユ監督トーク

「東日本大震災 東北朝鮮学校の記録

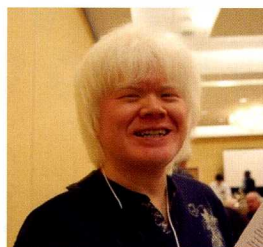
2011.3.15-3.20」

参加費1500円 リバティおおさか研修室 2

私は「アルビノの石井更幸」ではありません。

皆さんと同じ、ひとりの人間の「石井更幸」です。

福祉とか、特定の人たちが興味を持つような講演会ではなくて、何も知らない人たちにも、興味を持って来ていただける講演会にできたらと考えています。アルビノばかり全面に出さないで、ひとり人間として生きてきた中で、体験してきた事を伝えさせていただけたらと思います。



講演：石井更幸(会社員・アルビノ)

対談：松永真純(大阪人権博物館 学芸員)

司会：玉置育子(顔・化粧文化研究)

主催：リバティ応援企画「見た目問題」実行委員



映画紹介 製作：コマプレス/日本/2011/朝鮮語、日本語/67分

2011年3月11日、大地を揺るがした大地震。家屋の倒壊・大津波・福島原発の爆発。私達自身に「自らのあり方」を問い続けている。非常時だからこそ、失ってはならない私とそして他者の尊厳。フィルムは、淡々と40年間培ってきた地域社会との繋がりを求め続ける東北朝鮮学校を記録し続ける。全壊になった校舎。「大地は揺れても、笑顔で行こう!」を合言葉に、行政からの支援が皆無の中でも、全国の在日朝鮮人から送られてくる支援物資で地域住民への炊き出しやおにぎりの差し入れが行われる。しかし「県民感情」を理由に宮城県の村井知事は朝鮮学校への補助金を交付しないと決定した。朝鮮学校再建の見通しは、立っていない。1923年9月1日から約90年、私たちはどれだけ進みえてきたのか？

コマプレス/KOMAPRESS/코마프레스

朴思柔/パクサユさんと朴敦史/パクトンサさんの二人で2010年に設立。「コマ」は朝鮮語で子どもを意味し、小さきものを意味する。巨大なメディアに対してあえて「小さく」「低く」あることで、声なき声、不可視の葛藤、抵抗とはみなされない抵抗を伝えてゆくことを使命とする。